
ドラえもののび太のポケット。

国後旺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん のび太のポケット。

【Nコード】

N4370H

【作者名】

国後旺

【あらすじ】

ドラえもんがメイドさんだったら萌えるのか、実験してみた。

「ドラえもん」

私を呼ぶ声が聞こえます。

私はどら焼きとロシアンティーをのび太様の机の上に置き、私のポケットに引っ付いているミーちゃんを窓から投げ捨てました。「また遊びましょうね」投げ捨てられながらミーちゃんは言いました。私は優雅にヒラヒラ手を振りました。

「ドラえもん」

のび太様は、ドアをがちゃりと開けて、部屋にはいつてきました。

「ドラえもん」

「どうなさいました？ ご主人様」

「四次元ポケットちょうだい！」

「申し訳ございません、ご主人様。ですが、これは私のぷくぷくのお腹にあつてこそそのもの。ご主人様がお使いになるのはちょっと」

「つべこべあべこべ言わないでよ、口うるさい青メイドだなあ。僕にちょうだいよお」

と言いながらのび太様は私のポケットをまさぐり始めました。

「ああ、ご主人様、ん、おやめくださいご主人様。はあああ」

「お前は可愛いから、お前が可愛いから」

たまらず私はのび太様にボディブローを食らわせました。

「ぐげくぼうはあああん！」

「ご、ご主人様が悪いんですからね」

「ぐつふう、あべべ、だって、そのポケット、最高に気持ちよいんだよ。ゆるいけど、包み込んでくれて、異次元の微風とか最高だもの。この前みたいにさせてよ。ぺしゃあ、ごっちはあん」

「ダメですよ。そのせいでどこでもドアが、らぶほドアになったんですからね」

「ちえー、けつちいのお」

ご主人様は座って、下部のチャックをウィルソンしました。

そして、自分のズボン脇のポケットをポンと叩きました。すると、なんてことでしょう、ウィルソンからどら焼きが出てきました。

「どうなってるんですか、それは」

「ああ、これね。ポケット叩くとどら焼きが出てくるんだよ」

なんて素敵なポケット。のび太様は旨そうにどら焼きを食べます。ごくり。

じゅるり。

「ご主人様、そのポケットを、いや、そのズボンを私に下さい」

「ええ！？ なに急に大胆になつてんの！」

「いいじゃないですか。さあ、早く、早く脱いでえ」

私はのび太様のズボンを掴みました。

「脱がします！」

「うっそお！？」

ぐっっ！

「うっそお！！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4370h/>

ドラえもののび太のポケット。

2010年10月21日20時34分発行